

出題分析			
試験時間	60 分	配点	100 点
		大問数	3 題
分量 (昨年比較) [減少	<input type="checkbox"/> 同程度	増加]	難易度変化 (昨年比較) [易化 <input type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 難化]
<p>【概評】</p> <p>大問数は3で、各大問ともマーク式と短答記述、論述を併用している。論述問題は、今年度はⅠで1問、Ⅱで1問、Ⅲで1問の計3問出題され、昨年度より2問少ない。大問のテーマは、系統地理2問、地誌1問の問題で、これは昨年度と同様である。全大問のマーク式問題数は65で、昨年の64から1つ増えた。短答記述問題は、Ⅰは3問、Ⅱは2問、Ⅲは2問の計7問で、昨年の計9問より2問少ない。Ⅰの問4と問5、Ⅱの問4、Ⅲの問4はカタカナ指定である。地図を用いた問題は、2015年度以降すべての大問で見られない。表およびグラフを用いた問題は昨年度同様見られない。各大問のマーク式問題の語群の総数は176で、昨年の154から22増えた。各大問に論述問題があるとはいえ難問ではなく、難易度は昨年と同程度と言える。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	フォーミュラワン (F1)	自動車レースのフォーミュラワンから派生させた問題で、文脈からはF1開催国や開催都市に関する地誌問題である。問1のマーク式問題は、語群の語数は昨年度の40から今年度は56と多い。文脈から判定に迷う問いはない。21小問中8割程度は正解したい。問2のマーク問題は統計年次が古く、解答に迷う。問3は近年の情勢で解答しやすい。問4と問5は意表を突かれた問いであった。問6はバイオ燃料の生産拡大の問題点を簡潔に述べる。	標準

設問別講評			
II	繊維工業	テーマとしては系統地理であるが、問題文を読むと実質的には地誌問題である。問1のマーク式問題の語群数は48とIの間1の語群数より少ない。問題文の文脈に沿えば解答に困るものは少ないので、19小問中8割程度は正解したい。なお、(59)(60)は判断に迷う。問2はやや古い統計順位で、答えにくかったかもしれない。問3はやや難しい。問4は確実に正解したい。問5は近年の世界的な工業生産の変化を捉えた良問である。問6は難問で珍しい出題である。	標準
III	EU (ヨーロッパ連合)	EU (ヨーロッパ連合) 地域全体を見渡した地誌問題である。問1のマーク式問題は取り組みやすいので、確実に得点したい。19小問中8割程度は正解したい。問2は統計年次が幾分古く、また問3も盲点を突く出題で、いずれもやや難しい。問4は確実に得点したい。問5は機械類、自動車などではないことに注意したい。問6は企業、労働者、人口と論述する事項を誘導しているので、書きやすい。	標準

合格のための学習法

本学では系統地理のテーマは様々であり、各分野を万遍なく押さえるとともに、様々な問題に対応できるように応用力を養っておきたい。その一方で地誌対策も怠らず、どのような地域が出題されても解答できるよう、世界各地の地誌対策を立てておくことが肝要である。加えて、地理以外にも文化、経済、時事問題等の勉強もしておきたい。慶大地理は、標準的な問題でいかに得点を稼ぐかが合格への鍵となる。